

VU (絶滅危惧Ⅱ類)

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

コガタノゲンゴロウ

Cybister tripunctatus orientalis Gschwendtner, 1931

カテゴリー判定基準 : A-2

| 旧レッドリストカテゴリー | | |
|--------------|-------|-------|
| 1991 | 2000 | 2007 |
| R | CR+EN | CR+EN |

水田環境に依存し、1960年代までは平地の水田、池沼に普通であった。池沼の消失、高度成長期の強力な農薬使用、水質汚染、圃場整備により、1970年代以降南西諸島を除き全国的に激減した。とくに農薬に対し感受性が極めて高いと考えられる。本州の生息地は数えるほどで、早急な保全が重要。

Cybister tripunctatus orientalis, was commonly found in lowland paddies and ponds before the 1960s. Except in Ryukyu its population has drastically decreased since the 1970s, because of diversified development, water pollution, intensive use of pesticides and agricultural restructuring. It is thought to be highly susceptible to pesticides. Because only a few habitats remain in Honshu, its urgent conservation is needed.

基礎情報

■形態 体長24~29mm。長卵形でやや偏平。背面は緑から褐色を帯びた黒色で強い光沢がある。腹面は暗赤褐色。

■分布域 本州、四国、九州、南西諸島、小笠原諸島、国外では中国、朝鮮、台湾。アフリカ、アジア、オーストラリアに7亜種が広く分布。

■生息環境 平地を主とし丘陵にかけての水草の多い池沼、湿地や水田、水田脇の水たまり、休耕田、流れの緩やかな水路。

■生活史 4~7月に水草の茎に産卵する。幼虫は水生昆虫やオタマジャクシを捕食し、岸辺の土中で蛹化する。孵化後約2ヶ月で成虫となる。成虫は数kmは飛翔し、灯火に飛来し、池で越冬する。寿命は2~3年。成虫も肉食であるが、水草も食べる。

現在の生息状況

■分布域の現況 本州以南の平地で1950年代までは普通に見られたが、1960年代の農薬の大量使用以降、全国的に激減した。

■生息地の現況 南西諸島では比較的普通に見られ、四国や九州では局所的ながら残存するが減少傾向は著しい。本州ではほとんどで絶滅し、現存する生息地は数ヶ所。

存続を脅かす要因

平地の都市開発(15-1)、池沼の消失(12)、強力な農薬の大量使用(32)、水質汚染(31)、街灯、圃場整備(15-2)、中干し強化、ため池の近代的護岸(12)、アメリカザリガニなどの侵略的外来種の侵入(56-1)、採集圧(41)。

保護対策の現状

鳥取県、愛媛県の県希少野生動植物種。減農薬、中干し期の水域確保、放棄水田の湛水化が一部で開始されている。

特記事項

九州中北部など的一部地域での確認例が近年増加したため、今回の改訂でVUに下がった。現在の生息地の保全が最重要であり、侵略的外来種排除や採集圧対策も重要。メタ個体群構造の維持が望まれる。

参考文献

- 苅部治紀, 2011. 分布の再拡大を始めたコガタノゲンゴロウ。水生昆虫大百科 特別展 および! ゲンゴロウくん～水辺に生きる虫たち～展示解説書, p. 101. 神奈川県立生命の星・地球博物館。
國本光紀他, 2005. コガタノゲンゴロウの生態(その1)-越冬場所と繁殖地-. ゆらぎあ, 23: 1-7.
國本光紀他, 2006. コガタノゲンゴロウの生態(その2)-繁殖地と越冬地間の移動-. ゆらぎあ, 24: 1-6.
國本光紀他, 2007. コガタノゲンゴロウの生態(その3)-水田の水管管理の影響-. ゆらぎあ, 25: 1-9.

執筆者: 西原昇吾・苅部治紀・北野忠・中島淳・永幡嘉之